令和8年度東京ヘリポート消火救難訓練

7月13日（月）、東京ヘリポート（江東区新木場）にて消火救難訓練を実施しました。
本訓練は、東京都東京ヘリポート消火・救難規約に基づくもので、ヘリポート内事業者及び東京消防庁城東消防署のご協力いただき、毎年実施しています。



概　　要

日　　時：令和８年7月13日（月）13時35分～16時00分
場　　所：東京都東京ヘリポート　コンパス修正場、ホバリングテスト場及び周辺スポット
主　　催：東京港管理事務所
協　　力：東京消防庁装備部航空隊・城東消防署(消火協力)、江東区(起震車貸出)、川崎市消防航空隊(講師派遣)、日本フライトセーフティ株式会社(機体提供)
参加人数：４９名（うち見学者20名）
想　　定：東京湾沿いで震度７の地震が発生。滑走路を閉鎖し、臨時点検を行っていると、余震が発生。その余震で駐機中のヘリコプターが横転し、給油車と衝突し負傷者が発生。　その後、衝突を原因とする火災が発生。

第１部　通報訓練

地震発生時の初期対応について、警備及び情報提供業務受託者を交えて訓練を行いました。
また、衝突事故発生を受け、緊急連絡系統図に基づき、航空局や離島港湾部等への通報（一部模擬通報）及びヘリポート内事業者への緊急連絡を実施し、緊急時の連絡体制について確認しました。



各現場の状況をホワイトボードに記入


ヘリポート内事業者への緊急連絡

第２部　総合訓練

制限区域内において、担架を用いた負傷者の救助や三角巾を用いた応急処置を行いました。
また、総合訓練に先立ち、東京消防庁航空隊及び川崎市消防航空隊を講師とした救難救護に関する講習を実施し、参加者の方からもご好評をいただきました。



航空隊隊員による三角巾を使った救護講習



担架を用いた負傷者の救助

負傷者の救助が完了した後、東京消防庁装備部航空隊、城東消防署及び東京ヘリポート化学消防隊の消防車3台による一斉放水を行い、火災発生時の消火活動の訓練を行いました。



現場へ出動する消防車



一斉放水

起震車体験

江東区にご協力いただき、令和7年度に引き続いて、起震車体験を実施しました。

訓練参加者及び見学者に首都直下地震を想定した震度７の揺れを実際に体験していただき、激しい揺れの恐ろしさや被害の大きさを実感する貴重な経験となりました。



講　　評

訓練終了後、東京消防庁城東消防署の川部署長及び東京港管理事務所の菊田所長からそれぞれ講評を受けました。



城東消防署
川部署長からの講評

災害は無いに越したことはないが、航空機を扱っている皆様にとっては、日頃の備えというのものが非常に大事であるということは身に染みているかと思う。今回の訓練は本当にいい機会となった。

本日も多くの方に参加いただき、これからも災害のない安全な航空業界であっていただきたい。

また、今回の訓練でも消防車が2台参加したほか講習なども実施させていただき、消防としても何かあったとき皆様と協力して、災害に立ち向かっていきたい。

調布飛行場での小型機墜落事故から今月26日で11年が経つ。事故を風化させないため、港湾局では昨年に続き空港の安全総点検を実施していく。

本日は火災を伴う事故を想定し、少しでも被害を軽減することを目的とし、スピード感をもって負傷者の救護及び消火活動を実施することができた。

実地訓練に先立って行った救難講習も大変参考となる内容であり、各事業者の方も、職場で共有いただき、いざという時は今日のことを思い出して実践いただきたい。



東京港管理事務所
菊田所長からの講評

参加者の声

事故が発生した場合の対応要領を確認できた、イメージを持つことができた。

起震車体験は良かった。訓練参加者だけでなく、広く希望者を募ってもよい。

今回の訓練で発災時の基本的対応と流れを確認することができました。

今後も訓練を重ね、迅速的確な対応ができるように努めてまいります。

訓練に参加された皆様ならびに運営にご協力いただいた皆様に、心より感謝申し上げます。



（担当）東京港管理事務所港務課ヘリポート担当
03－3522－2681